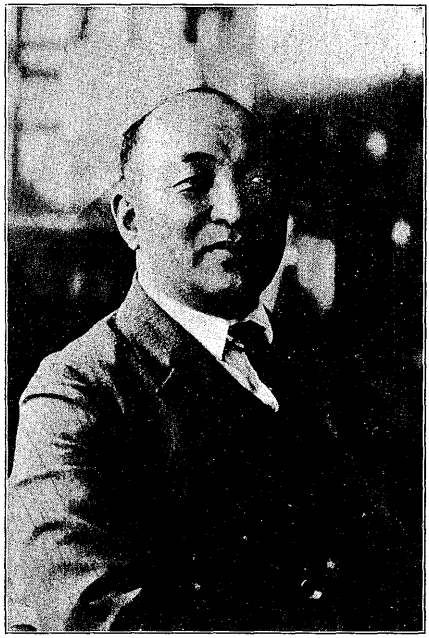
とさみづき屬（Corylopsis）ハ現世ニアリテハ中部支部ヲ分布ノ中心トシ西ハヒマラヤニ東ハ日本ノ襲速紀山地及ビ日本崑崙ニ分布スルモノナレバ久シク天生地ノ明ナラザリシひうがみづきモ九州四國中國近畿ヨリ美濃飛驒高原ノ內何レカニ自生地アルヲ豫想サルヽガ今日判明セシ其自然分布ノ狀ヲ詳記セバ次ノ如ク此等調査ニハ田代善太郎氏及ビ予、丹波博物學會員岸野賴三郎氏、同荒木英一氏及前記諸氏ノ力大ナリ、マヅ丹後ニテハ加佐郡彌仙山、同熊野郡高龍寺山、丹波ニテハ大江山、天田郡余田山、行者山、三岳山、上夜久野爲母山、但馬國養父郡大藏村羽賀野大藏部山、朝來郡粟鹿山、黑川附近、城崎郡來日山、樂々浦ヨリ三原ヘノ峠ノ東北面等ナリ、サレバ目下ノ處ニテハ丹波高原ガ主産地ニシテ就中閃綠岩ヨリ由來セシ蛇紋岩地ニ多キ傾向アリ



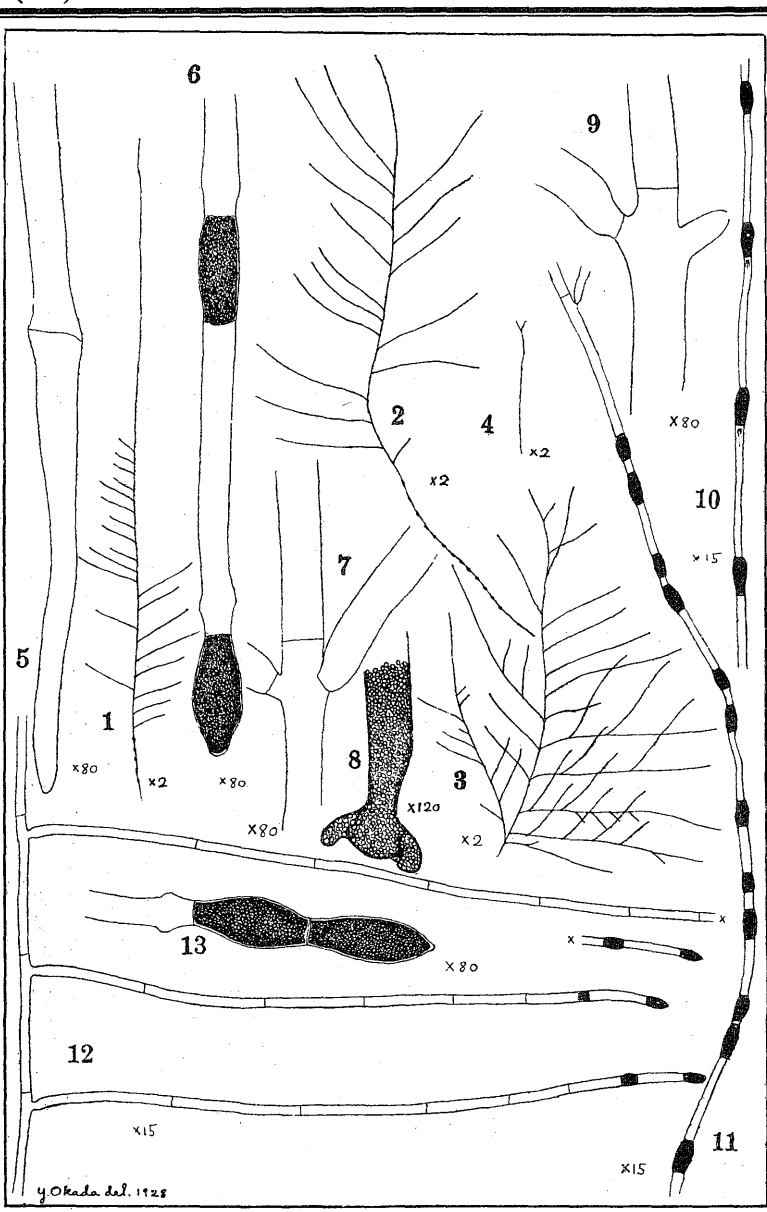
東道太郎君

（昭和三年冬岡田喜一君撮影）

○將ニ歸化植物トナラントスル淡水藻ノ一例

農林省水產講習所敎授　東道太郎（ヒガシミチタラウ）

水產生物ヲ移植スル際目的ノ生物以外ニ思ヒモヨラヌ生物ヲ不知不識同ジク移植スル事ハ殆ンド常ノ事ナリ、殊ニ魚族ヲ生キタルマヽ移殖スル場合ニハ容器中ニ魚族ノ外ニ水草、藻類ヲ入レテ運搬スルヲ以テ自然種々ノ藻類、水草ナドモ共ニ移殖セラルヽコト多シ、然シテ此場合若シ此モノガ其地ニ繁殖スルコトヲ得シ時ハ、土著ノモノト共ニ、或ハソレ以上ニ繁ルコトハ先



あをみさう（新稱）　Pithophora Kewensis Wittrock.

1,2,3,4. 形狀ヲ示ス（二倍） 5. 假根（先端ノ細長キ細胞） 6. 體ノ下部ニシテ其先端假根トナラズシテ胞子トナリタルモノ、上部ニハ中間ニ生ズル胞子アリ（八十倍） 7,9. 枝ノ下部ヲ示ス 8. 假根ノ變形セルモノ（百二十倍） 10,11. 胞子ヲ有スル主枝（十五倍） 12. 偏出セル枝ノ一部（十五倍） 13. 枝ノ先端ニ一對ノ胞子ヲ生ゼルモノ（八十倍）此ノ如キ事ハ極メテ稀ニ見ラルヽコトナリ

刻御承知ノ通リニテ、顯花植物ニアッテハ擧ゲルマデモナク其例ニ乏シカラズ、隱花植物ニアッテハ此様ナコトハ同様、寧ロコレ以上ニ行ハレアランモ、何分人ズキノ惡イタメカ比較的注意サレルコト少キ様ナリ

余ハ昨昭和二年十一月、岡田喜一氏ガ武州金澤町富岡在住ノ知人、鈴木吉五郎氏ノ「アクアリウム」中ニ繁茂シ居リシ一淡水藻ヲ貰受ケ、持歸リタルモノヲ調ベタルニ、未ダ本邦ニ產スルコトヲ報ゼラレタルコトナキ Pithophora Kewensis ナルコトヲ知リタリ、此モノハ最初廣瀨巨海（オホミ）氏ガ先年北米合衆國サンフランシスコヨリ取寄セタル熱帶所產ノ魚類ト共ニ來リタルモノニシテ、鈴木氏ノ水槽中ニ極メテ能ク繁殖シ居リ魚族ノ飼養ニ差支ヲ生ズル程ナルユエ時ニハ取リ捨ツルコトアリトノ事ナレバ、本藻ハ意外ニモ耐寒性ニ富ムモノナルコトヲ知リタルヲ以テ之レガタメ或ハ野生ノ狀態トナリテ其地方ニ繁茂スルヤモ料ラレズ、後日誰カ之ヲ採集シ、天然ニモ分布シ居レリト發表スルコトモアランカトノ懸念ヨリ拙稿ヲ本誌ニ投ジタルナリ、幸ヒニ掲載ノ榮ヲ得バ幸甚ノ至リナリ

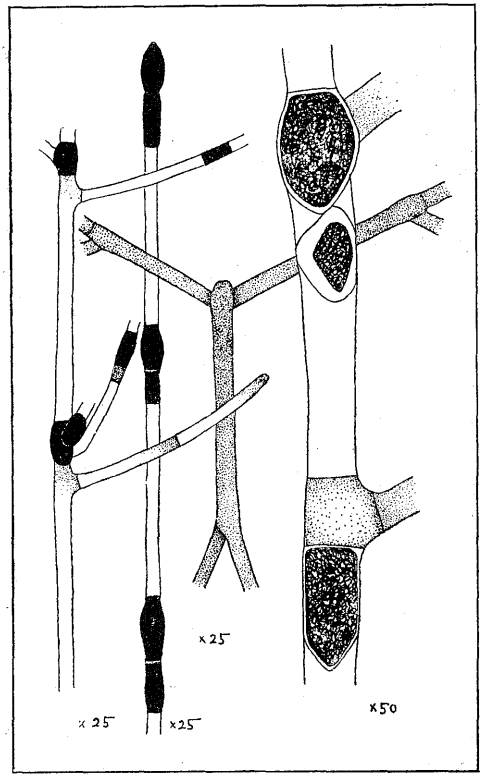
Pithophora ハしほぐさ屬 Cladophora ニ極メテ類似セル淡水產綠藻ニシテ Wille(1) ニ據レバ世界ヲ通ジテ十五種ヲ產スト云フ、本屬ノ特徵ハ Collins(2) ニ據レバ

體ハ絲狀ニシテ、細胞一列ニ連ナリ、分岐ス、枝ハ細胞ノ先端ノ下部ヨリ生ズ、細胞ハ圓柱狀或ハ膨脹シ、多核ニシテ、網狀ノ色素體並ビニ多數ノ「ピレノイド」ヲ有スル、無性生殖ハ akinetes ニヨル、コノ胞子ハ體ノ中間或ハ頂端ニ生ズル營養細胞ノ分裂ニヨリテ作ラレタルモノニシテ、其上部胞子トナリ、下部ハ營養細胞ノマヽ殘サル、此胞子ガ發芽スル際ニハ、二ツノ部分ニ分レ一ハ短キ假根トナリ他ハ發育シテ莖ノ部分トナル

本屬ノモノハ主トシテ熱帶或ハ亞熱帶ニ產シ我ガ橫濱ニ產スルハ異例ニ屬スル、Cladophora ト類似スルモ其屬ノ如ク游走子或ハ配偶子ヲ生ゼズシテ單ニ akinetes ヲ生ズルコトガソノ最モ異ナレル點ナリ

本屬ノモノハ今回始メテ本邦ニ於テ見出サレタルニハ非ズシテ、該屬ヲ設ケタル Wittrock(3) ノ論文中ニハ既ニ Pithophora Zelleri (v. Mart.) ガ我邦ニ產スルトノ記載アリ、本種ハ E. v. Martens ガ千八百六十年十月

横濱附近ノ水田ニ於テ採集シ同氏ハ之ヲ Cladophora ノ新種トシテ Cladophora Zelleri(4) ト命ゼラレタルモノニシテ後ニ WITTROCK ハ E. V. MARTENS ノ採集セル前記ノモノヲ研究シ之ヲ Pithophora ノ屬ニ移シタリ、其特徴ハ WITTROCK(3) ノ記載ニ據レバ



Pithophora Zelleri (v. MART.) WITTROCK.
(after WITTROCK.)

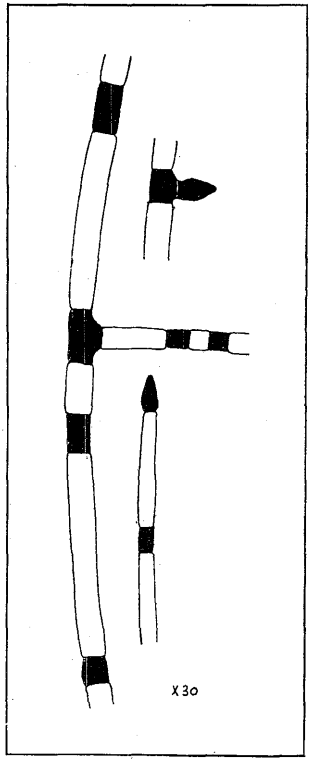
Pithophora Zelleri (v. MART.) WITTROCK.
充分ニ發達シタル體ニ於テ莖枝ノ部分ノ主ナル枝ノ太サハ平均百二十 μ アリ、再出ノ枝ヲ有シ、枝ハ單生シ或ハ對生ス、胞子ハ枝ノ途中ニ生ジ或ハ頂生ス、主枝ニ生ズル胞子ハ規則正シク一對ヅヽ生ジ、枝ニ生ズルモノハ通常單生ス、一對ノ胞子ノ內上部ノモノハ（及ビ主枝ニ於テ往々見ラルル單生ノ胞子ハ）麥酒樽狀ニシテ平均ノ太サ百四十四 μ 長サ二百三十二 μ アリ、下部ノモノハ亞圓柱狀ニシテ平均ノ太サ百十三 μ 長サ百七十九 μ アリ、第一回目ノ枝ノ單生胞子ハ圓柱狀ニシテ平均ノ太サ八十五 μ 長サ百三十五 μ アリ、頂生胞子ハ麥酒樽狀ニシテ、頂端ニ生ズルモノハ圓錐形ヲ呈シ其頂部ハ稍ヤ圓ク平均ノ太サ百三十二 μ 長サ三百八十二 μ アリ

余ハ本種ヲ千葉縣浦安ノ水田ニ於テ採集シタル事アルモ標本ハ全部先年ノ大震災ノ際ニ燒失シ今現存セズ

一千九百十年 St. Louis ノ Missouri Botanical Garden ノ日本植物ヲ培養シヨル池ヨリ新シキ Pithophora ヲ

HAYDEN ガ發見シ之レヲ COLLINS(5) ハ Pithophora Mooreana ト命名シ發表セラレタリ、其特徴ハ

Pithophora Mooreana COLLINS. 主枝ノ徑ハ九十五 μ 乃至百四十 μ、枝ハ單生或ハ對生シ七十五 μ 乃至百 μ ノ太サアリ、長クシテ漸次先端ノ方ニ細シ、常ニ先端ニハ胞子ヲ有ス、細胞ノ長サハ太サノ二十倍以上アリ時トシテハ極テ短キモノモ存ス、特ニ二ノ胞子ノ間ニ存在スルモノニ於テ然リ、枝ノ中間ニ生ズル胞子ノ太サハ細胞ノ太サト同一カ或ハ少シク細シ、正シキ圓柱狀ニシテ太サノ一倍半乃至四倍長シ、枝ノ多クニ於ケル頂生胞子ハ圓錐形ニシテ稍ヤ圓キ底部ニ於ケル太サハ約五十 μ アリテ丸キ頂端マデノ長サハ百二十五 μ アリ、胞子ト營養細胞トハ規則正シク交互ニ生ジ、長キ或ハ短キ枝ハ時トシテハ胞子ヨリ生ジテ胞子ニ接續シ、或ハ胞子ヨリ生ジタル枝ハ胞子ト營養細胞トヲ交互ニ生ズ、枝ニ生ズル胞子ハ常ニ他ノモノヨリモ短シ



Pithophora Mooreana COLLINS, by LAMBERT.

本種ハ單ニ日本ノ植物ヲ培養シヲル池中ニ繁殖シヲリタルモノニテ且ツ北米ノ他ノ場處ヨリ發見セラレザルモノ故恐クハ本邦ヨリ他ノ植物ト共ニ渡來シタルモノナラント考フルモ未ダ本邦ニ於テハ發見セラレズ、本邦ニ於テ Pithophora 屬ノモノヽ產地ハ余ノ知レル範圍ニ於テハ浦安ト橫濱トノ二ケ處ノミナリ

今回富岡ニ於テ得タルモノハ余ハ Pithophora Kewensis ト同定シ新和名ヲあをみさうト稱スル、該種ハ WITTROCK ガ千八百七十二年八月三日ヨリ二十五日迄英國 Kew ニ逗留中植物園內ノ Waterlily-house ト呼バルル熱帶植物培養ノ溫室ニ於テ發見シタルモノニ係リ熱帶產ノ睡蓮科ノモノ及ビ其他ノ水草ト共ニ生育シヲリシモノニシテ其池ノ水ハ常ニ比較的高溫ニ保タレヲリシモノナリ、本種ハ熱帶產ノ水草ノ根ニ附着シ來リタルモノナ

ランガ其原産地ハ南亞米利加ナラント考ヘラルルモ未ダ野生ノモノハ發見セラレザルナリ、本種ノ特徴ハ Wittrock (6) ニ據レバ

Pithophora Kewensis Wittrock. 充分ニ發達シタル體ニテ莖枝部ノ主枝ハ平均ノ太サ五十九 μ アリ、單ニ一回分枝スル（稀ニ再出ス）、偏出枝ヲ有ス、胞子ハ單生、枝ノ中間或ハ頂ニ生ズ、中間ニ生ズル胞子ハ麥酒樽狀ニシテ、頂生ノモノヨリモ細長ク延ビ、太サ約八十一 μ 長二百〇五 μ アリ、頂生胞子ハ麥酒樽狀ヲナシ上方圓錐形ニテ其頂ハ稍ヤ圓シ、平均ノ太サ八十 μ 長サ二百十九 μ アリ、體ノ假根部ハ一般ニ單細胞ナリ

今回富岡ニ於テ得タルモノハ右記載トハ僅カノ相違アリ

體ノ太サ五十乃至九十 μ、頂生胞子ノ太サ八十乃至九十 μ 長二百十九 μ 乃至二百二十 μ、中間ノ胞子ノ太サ七十 μ 長百八十 μ ナリ

本種ハ Collins (7) ニ據レバ北米合衆國ニ於テハ一千九百九年十月 Miss G. P. Nichols ガ Ohio 州ノ Oberlin ノ牧場内ノ小池ニ於テ發見セラレタルモノニシテ其ノ他ノ地方ニ於テハ尚ホ未ダ之ヲ見ザルモノナルガ現時歐米諸國ニ於テハ種々ノ淡水魚類ヲ愛玩スルコト非常ナル流行ニシテ專門ノ雜誌サヘ數多發刊シヲル狀況ナレバ飼育水槽ノ中ヘハ種々ノ水草藻類モ觀賞並ニ魚類ノ生活上ノ必要ヲ兼ネ植付ケラルヲ以テ本種モ亦或ハ彼ノ地ニ於テハ普通水槽中ニ見ラルヽモノナルヤモ知ラレザルナリ

末尾ニ當リ本研究材料ヲ多數惠與セラレタル鈴木吉五郎氏並ニ本種ヲ檢スル機會ヲ造ラレタル廣瀨丑海氏ニ感謝ノ意ヲ表スルコト大ナリ

昭和三年十一月二十日

東京市深川區越中島　水產講習所植物室ニ於テ

1) Wille, N.: Die natürlichen Pflanzenfamilien. Nachträge zum I Teil, 2 Abteilung. 1911. p. 118.

2) Collins, F. S.: The Green Algae of North America. 1909. p. 362.

3) Wittrock, V. B.: On the Development and Systematic arrangement of the Pithophoraceae. 1877. p. 64. Pl. 1, figs. 9-12.

4) Martens, G. v.: Die Tange. 1866. p. 111.
5) Collins, F. S.: The Green Algae of North America, Supplementary Paper. 1912. p. 97. Pl. I. f. 9.
6) Wittrock, V. B.: Ibid. p. 52.
7) Collins, F. S. Ibid. 1912. p. 98.

●讀者諸氏ニ御願ヒ……本屬以外何種ノ淡水藻ニテモ御採集ニ相成リタルトキハ御分與下サレンコトヲ懇願致シマス、材料ハ出來ルコトナラバ生ノ儘カ或ハ十「パーセント」位ノ「ホルマリン」漬ナレバ尚更ヲ好都合デアリマス

【牧野云フ】東君ハ本邦淡水産藻類ノ研究者デ造詣頗ル深キモ尚ホ吃々トシテ研鑽ヲ續ケテ居ラレル篤學ノ士デアリマス、我邦各地ニあをみどろナドヲ始トシテ淡水産藻類非常ニ多キモ普通ノ人々ニハ其名稱ノ判然セザルモノ極メテ夥シク若シ一朝之レガ判カッタ曉ニハドレ程知識ヲ增シ興味ヲ感ズルカ殆ンド料リ知ルベカラザル事デアラウト思フ、前述ノ樣ニ東君モアノ通リ切望シテ居ラレル故諸君モ成ルベク其レヲ採集シテ送ッテ上ゲタラドンナモンダラウ、サウスレバ東君モ不斷ノにこ〳〵顏ヲ彌ヤガ上ニモにこ〳〵サスシ又送ッ方モ其名稱ナドヲ同君ニ教ヘテ貰フ事ヲ得謂ユル一擧兩得ノ利益ヲ享クル事ガ出來誠ニ結構至極ナ事デハナカラウカ、其レガ延イテハ斯學ノ進歩ヲ助クル結果ヲ將來スル事ヲ想ヘバ是レハ亦極メテ大切ナ事デアルトモ謂ヘル、單ニ趣味トシテデモ之レヲ採テ來テ一度顯微鏡下ニ窺フテ見タマヘ其見エテ居ル所マルデ憂キ世ノ外ノ別世界デ夫レヲ見テ居ルト自分ハトテモ此うるさい人間社會ニ居ル樣ナ氣ガシナイ、チョッデモサウ云フ塵外味ヲ味フニハ他ニ優レテ持ッテ來イノ淡水産藻類デアル、千狀萬態ノ形體、多樣ナル模樣、鮮美ナル色彩、誠ニ見テモ〳〵飽カヌ眺メデアル

○植物新産地一束

東京帝國大學理學部植物學教室　正宗巖敬

るりしゃくぢゃう（Burmannia Itoana Mak.）本種ハ琉球列島ノ八重山諸島ノ一部デ發見サレタ者デ本列島中奄美大島マデ分布シテヰル事ハ判カッテ居タガ、本夏余ハ此ヲ屋久島ノ南側ニ得タノデ今ノ所本島ヲ其北限ノ産地ト考ヘル事ガデキル、屋久島ニハ本種ノ他ニ尚ホ同科ノ**しろしゃくぢゃう**、**ひなのしゃくぢゃう**ヲ産スル、**ほそばおほかぐま**（Woodwardia Takeoi Hay.）ハ臺灣デ最初ニ發見サレ上記ノ學名ガ與ヘラレタ羊齒デ原産地ニ